

【熊本県賞】

水の色ってどんな色？

熊本県 学校法人鎮西学園真和中学校 三年 河端 優里

「水の色は何色ですか？」そう問われた時、私たちが思い浮かべる水の色と世界の国々の人々が思い浮かべる水の色はもしかしたら違うのかもしれない。私たちの身近にある水について世界の現状を見ながら考えたいと思います。

「水」というものに私たち日本人は、「透明で綺麗な色のもの」「蛇口をひねれば出てくる」などと言った印象を持っている人が大半なのではないでしょうか。私も少し前までは、そう思っていました。私の周りの水はいつも透き通っていて、美味しかったからです。

私はテレビに映る発展途上国の映像に衝撃を受けました。私たちが思う水とはかけ離れていたのです。人々は茶色く濁った水を飲みその水で洗濯もしていたのです。そんな世界の現状を見て私は今までの自分の考えがとても恥ずかしく感じました。

地球に存在する水の中で私たちが利用できる「淡水」の割合はわずか〇、一パーセント。これはお風呂いっぱいの水を世界の水の総量だとすると、淡水は一滴程度ということになります。こう考えるとすくなく少ないことが分かります。

私たちが使える水は有限であり、無限ではありません。自分たちで井戸を掘ったり、戦いをして勝たなければ手に入らなかった昔と比べて、現代の私たちにとって水はとても身近なものになっています。しかし、私たちが水を身近に感じ、その存在が当たり前前のようになくなってしまふことはとても恐ろしいことです。

発展途上国の子供たちは今日も泥水を飲んでいます。その水は子どもたちの命を脅かすものであり、未来を奪うものです。しかし、その水を飲む以外に生きる方法はないのです。そんな世界の現状を知った時、私はある日本人医師の存在を知りました。中村哲さんです。中村さんは長年、アフガニスタンで現地の人々の為に尽力されました。干

ばつが起きている地域には用水路を作り、小麦が育てられるようになりました。その後も現地の水に頼まれて用水路を作り続けました。用水路ができたことで砂膜が緑でいっぱいになり、現地の人々は感動したそうです。

私の住んでいる九州地方には二つの環境モデル都市があります。一つは熊本県水俣市。二つ目は福岡県北九州市です。どちらも、かつては工場排水による問題を抱えていました。しかし、今では環境モデル都市に認定されるほど環境は改善したのです。ゴミの分別やリサイクルなど「一人一人ができること」に皆が意識を持って取り組んだことで環境モデル都市に認定されるまでとなったのです。まさに、「塵も積もれば山となる」です。ゴミの分別やリサイクルなど小さなことに意識を向けてそれを継続することがとても大切です。

今、世界では水不足問題は年々深刻化しており、このまま続けば二〇五〇年には総人口六十九億人の半数以上が水不足に陥ると言われています。世界には今この瞬間も水不足で亡くなる方もいらっしゃいます。心が痛いですが、これが現実なのです。

手を洗う時は水を止める、歯磨きのときは水をコップにためておく、シャワーを出しっぱなしにしない、など私たちが今日からできる節水は沢山あります。今の私たちができることをし、私たちの子孫に継承する事が、日本の、世界の未来に繋がります。さあ、みなさんも今日から「自分にできること」を何か一つ始めてみませんか。あなたが始めたその行動が日本の未来を明るくするかもしれない。

「水の色は何色ですか？」そう問われたときに世界中の人々が皆口をそろえて「透明」と言う。そんな未来が来ることを願ってこの作文を書き終えたいと思う。